



1 4

1 [ブナ保護林]

知内川の支流、チリチリ川の上流にあるブナ天然林。約13ヘクタールの広さがあり、ブナのほかイタヤカエデ、トチノキ、ミズナラなど、多くの樹木や植物が生育しています。ブナの成木1本の保水量は年間約8トンといわれ、母なる知内川に豊かな水が注がれています。

2 [知内丸山]

小谷石地区にある矢越山荘(旧矢越小学校)を後に山へ向かって200mほど進むと丸山



2

(665.4m)の登山道入口の標識があります。山頂へは約2時間30分の道のりで、途中にはブナの巨木なども見られます。山頂からは小谷石地区の集落と津軽海峡が眼下に望めます。

3 [コロナイ川上流]

知内橋と新知内橋の間に注ぐ知内川の支流。上流へさかのぼるとつれ周囲は深い森になり、水も清流そのものになります。知内町の水道はこの清流を水源にしています。川に沿って林道が続いているのでコロナイ川の清らかな流れを楽しむことができます。



3

4 [矢越岬]

松前矢越道立自然公園の見どころのひとつとなっている海拔121mの断崖の岬です。岬には1655(明暦元)年松前藩家老蛸崎広林が、蝦夷蜂起による出征の際、武運長久を祈願して建立し、弓矢を奉納したと伝えられている矢越八幡宮があります。

知内 とっておき 自然スポット 森、清流、奇岩怪石:

重内展望台

「重内神社」の裏手にある210段の階段を登ると「重内展望台」があります。この展望台からは、豊饒な大地、その向こうに広がる津軽海峡、大千軒岳などを含む山々等の大パノラマが展開します。

210段の階段のぼって大パノラマ



縄文式土器



石槍



知内 歴史ハンター

道内最古の「黄金伝説」が伝わる:

1 日本人のルーツを探る [日本最古の墓]

1983(昭和58)年、現在の道の駅「しりうち」付近から、約1万4000年前の旧石器時代末期の墓が発見され、その副葬品である玉や垂飾などは、当時を知る上で学術的価値が高く、また貴重な資料として国の重要文化財に指定されています。

2 砂金掘りで開かれた町と伝える [大野土佐日記]

道内最古といわれる雷公神社(元町地区)に伝えられる「大野土佐日記」によれば、1205(元久2)年砂金を求めて甲斐の国から荒木大学が来て採取を始めたと伝えています。今でも知内川では砂金が見つかり、夢とロマンを感じさせます。

3 中世の館があったとされる付近から発見 [渡来銭]

海岸地帯である涌元地区から約60年前に発見された1,000枚の渡来銭のなかの1枚が14世紀鑄造のベトナム貨幣「開泰元寶」と判明、日本初出土と話題を呼びました。ベトナムからどのように来たのか興味をひき、今後の調査が待たれます。



発掘された墓(写真下) 墓を記念したモニュメント



1

4 1247(宝治元)年発見と伝えられる [道内最古の温泉]

砂金掘りの掘り子が発見したと伝えられる道内最古の知内温泉。知内川支流の湯ノ川沿いにあり、温泉の沈殿物である湯花が積重なった浴槽は、悠久の歴史を感じさせます。



4

雨石の複製品



姥杉



伝説の現場を訪ねる

雨石と姥杉

知内町にたくさんある伝説のひとつに「雨石」があります。秋に日照りがつづき知内川の水が少ないとサケが上がってきません。そんなとき、縦横20数センチ、奥行15センチほどの塚石を川に持って行き、水をかけながら雨乞いの祈願をするると必ず雨が降ったので「雨石」と呼ばれるようになり、祠がたてられました。それが雨石社です。旧知内小学校そばにありましたが、現在は雷公神社に合祀されており、もとの場所には、複製品の石が置かれています。また、お乳が出ない母親が祈願すると必ず出るとの言い伝えがある「姥杉」は、知内公園内にあります。木の根元に乳房状のコブがあり、樹高30m、樹齢700年以上といわれる古木です。毎年1月17日に女性だけのお祭り(十七夜講)が雷公神社で行われています。